

各市の文化財紹介

枕崎市

ばんくがしんこん ＜万句賀親乾＞

〔昭 48.10.5 市指定〕

喜入氏十代領主久亮が晩年白寿の祈願をこめて詠んだ連歌集。享保6年秋から山本度好を相手に前半五千句を共詠しました。度好が鹿籠を去ってからの、つまり後半五千句は独詠です。

題材に鹿籠の風物を扱ったものが多く「この村に腐れ鯛の頭して肥糞たんと入れる田の原 衣手に鼻塞いで通りけり」など当時の鹿籠浦の様子がうかがえるものが多いです。

白寿の願いも空しく、翌7年（1722年）10月15日一万句を詠み終え、65歳をもって没しました。一万句の連歌集は国内でもめずらしいとされています。



【喜入久亮氏の連歌集】

指宿市

＜伏目海岸の 池田火砕流堆積物と噴気帯＞

〔平 26.4.22 県指定〕

ヘルシーランド露天風呂（たまた箱温泉）がある伏目海岸の一部が、平成26年4月22日に県指定文化財（天然記念物）に指定されました。

ここには、次の世代へ守り伝えていくべき貴重な天然記念物が2種類あります。一つ目は、伏目海岸沿いに見られる火砕流堆積物（かさいりゅうたいせきぶつ）です。今から約5千7百年前に池田カルデラ（現在の池田湖）が形成された際の噴火で、大量の火砕流が厚く堆積したものです。砂浜から上に見えている地層だけでも厚さは15m以上もあります。その景観は絶景そのものです。

二つ目は、地下から蒸気が吹き上がっている噴気帯です。ここでは約80度の熱水が海中や砂浜のいたる場所から吹き上がっています。

温泉のまち指宿には、このように過去と現在の火山の活動を実感できる場所が多数あります。ぜひ、この機会に現地と山川砂むし温泉を訪れて、ダイナミックな大自然に触れてみてください。



南さつま市

<南薩摩の十五夜行事> [昭 56.1.28 国指定]

旧暦8月十五夜の月を祭る行事はわが国に広く行われていますが、南薩摩には、独特の十五夜行事があります。南さつま市坊津町鳥越の「火とぼし・手つなご・ドントセ」、上ノ坊の「火とぼし」、泊の「十五夜踊り」を紹介します。

鳥越の火とぼしは、集落外れから松明の火をかざし、十五夜歌を歌いながら嫁女（お嫁さんに見立てて作った茅）をかついで会場へ。会場では十五夜歌の一つであるおくめ口説きに合わせて中学生から青年が、へこ姿で手と手を繋ぎ引っ張り合い（手つなご）をします。その後、旧坊泊小学校正門前に集まり十五夜歌を歌いながら青年と小人・大人との押し合いへし合い、おしくらまんじゅうに似た「ドントセ」を行います。

上ノ坊の火とぼしは、日没後集落東側旧道の岩上で、松明（暖竹に松の葉をつめる）を作り、円を描くように振り回し、青年は「十四があまかで火を回せ」と歌い、子どもたちは火を消しながら「火が見えたか」とハヤシをかけます。闇の中にいくつもの炎の輪が重なる光景は幻想的です。

泊地区では、十五夜当日昼過ぎに道楽（みちがく）といって、女子は着物姿で扇子をひるがえして、三味線・太鼓にあわせて踊り、男子は笠などに紙しべを貼って作ったしべ帽をかぶり、十五夜歌を歌いながら泊の九玉神社まで1キロ余りの行列で宮参りします。神社境内では十五夜踊り（シベ踊り、扇子踊り、手踊り）を奉納します。夜になると女子の踊りの輪にスジまわりの男子が闇夜にまぎれて乱入し、楽しく踊っている踊りを壊す「踊りこわし」も見られます。かつては浜辺で輪になって踊っていましたが、現在は泊公民館の広場で踊られています。



【ドントセ】



【火とぼし】



【十五夜踊り】

南九州市

<穎娃城跡>

[平 17.4.19 県指定]

穎娃城は、指宿市開聞との境に近い山中に位置し、東西を自然谷によって浸食されたシラス台地を利用し築城された中世の山城です。その外観から、別名「獅子城」「野首城」とも呼ばれています。城跡の中心付近には城内（ぞない）、高城（たかじょう）、上城山（かんぞやま）、下城山（しもぞやま）などの小字のほか、土塁、空堀や石垣など当時の面影がしのばれる遺構も残されています。城内は、昭和初期までサツマイモや菜種が栽培される畑として利用され、その後は杉や檜が植林され現在に至っています。



【穎娃城跡の上空写真（発掘調査時）】

築城は、15世紀、伴性穎娃氏の初代兼政の頃と考えられています。「三国名勝図絵」によると、伴性穎娃氏の全盛期を築いた7代久虎は天正15年（1587）に五層の天守を造り、その三階は「金の間」と呼ばれ、モンゴル人の虎狩りの絵が描かれていたといわれています。また、16世紀半ば6代兼堅のときには、山川に滞在していたポルトガルの商人であるJ・アルヴァレスによって初めて外国に紹介された日本の山城でもありました。

平成14年から17年にかけて実施した発掘調査で井戸跡、建物の柱穴や礎石などの遺構を検出したほか、15世紀から16世紀を主体とした中国産磁器や国内産陶器などが出土しています。